

# 平成27年度 学校評価

江津市立青陵中学校

めざす生徒像	経営の重点	年間目標	取組目標	成果・取組指標	達成状況	評価	学校関係者評価	評価	改善策			
生徒の意欲を喚起させる学習指導の推進			学力調査等の結果分析やその対策の検討を計画的に行い、学力向上に活かす手だてを明らかにするとともに、授業評価を計画的に行い、授業改善を図る。	経年比を踏まえて学力調査等を分析し、生徒の学習状況の現状を把握し、教科・学年における対策を考えると、定期的にアンケート調査(自己評価)を行い、結果から生徒の実態や変容を把握し、授業改善に生かす。	学力調査等の結果の分析を行い、各教科や学年での指導の重点を明らかにし、その対策を考え実施した。自己評価アンケートにより、授業の改善や授業力の向上を図ったが、その成果を全体に還元することについて不十分な点があった。	B		B	分析の結果明らかになった課題や改善策について、今年度の実施を振り返り、指導の重点(聞く力、見通す力等)を明確にして次年度に備える。共通して取り組む事項を確認し、視点を設けて自己評価や研修に取り組み。			
			生徒一人ひとりの学力向上をめざした細やかな取り組み(実態把握、課題と改善策の設定、指導の工夫改善、学習習慣づくり)を行う。	家庭における学習習慣の定着を図る。	家庭学習の必要性とその進め方について指導するとともに、各学年・教科で自学ノートを活用し、日々の家庭学習の習慣化を図る。	各学年で日々の家庭学習の習慣化に取り組み、ある程度の成果を得ることができた。また、今年度は校区の小学校とも連携を図り、定期テスト前に校区内一斉の学習ウィークの取り組みも実施し、家庭学習を推進させた。学力調査のアンケート結果においても、「学校の宿題をしている」と答えた生徒の平均が90%を越えるなど高い数値を示している。しかし、内容が工夫して学校での学習を振り返るという点ではまだまだ改善の必要がある。そして、スプレッドシートや長期休暇明けの漢字テスト等を利用して、基礎的な学習の力を付けさせようと、学年全体で取り組み学習への意欲を高めることができた。			各学年で日々の家庭学習の習慣化に取り組み、ある程度の成果を得ることができた。また、今年度は校区の小学校とも連携を図り、定期テスト前に校区内一斉の学習ウィークの取り組みも実施し、家庭学習を推進させた。学力調査のアンケート結果においても、「学校の宿題をしている」と答えた生徒の平均が90%を越えるなど高い数値を示している。しかし、内容が工夫して学校での学習を振り返るという点ではまだまだ改善の必要がある。そして、スプレッドシートや長期休暇明けの漢字テスト等を利用して、基礎的な学習の力を付けさせようと、学年全体で取り組み学習への意欲を高めることができた。	B	・若者の対応力が弱く、社会に出ての離職等が問題視される昨今の現状から、1年生の段階からの働くことについての学習と体験を推進していくことが重要である。	生徒の実態に即した課題設定を行い、今後もキャリア教育の推進に関連させて、学び合う場の設定を工夫するなど、学校教育全体を通して、生徒の力の育成を推進する。学級活動や生徒会活動を見直し、日常の学習活動や係活動等の場面でも協力して物事に取り組める生徒の育成をめざす。
			読書に親しみ、学校図書館を活用しようとする生徒を育てる。	図書館活用・読書生活の充実を図る。	学校図書館の環境整備、全校一斉朝読書の継続・充実、読書関連活動の実施、図書館を利用した授業の実践と教職員の研修に取り組む。	学校図書館の環境整備として、学校司書による館内整備が進み、掲示物やテーマ展示がされ、図書館の利用者数増にも反映されている。朝読書を中心とした生徒の読書への取り組みも良好で、全校生徒対象の読書ノート活動も順調に行われている。読書関連活動の一つとして、生徒会文化委員会主催の全校読書集会の開催、図書標語コンクールの実施、図書館通信(生徒向け・教職員向け)の発行など、学校全体を巻き込んだ活動にも引き続き力を入れている。今後の課題は、学校図書館と教科とがいがい連携を進め、図書館を利用した授業が全教科にわたって実践されていくかということである。そのための体制作りを推進していきたい。			学校図書館の環境整備として、学校司書による館内整備が進み、掲示物やテーマ展示がされ、図書館の利用者数増にも反映されている。朝読書を中心とした生徒の読書への取り組みも良好で、全校生徒対象の読書ノート活動も順調に行われている。読書関連活動の一つとして、生徒会文化委員会主催の全校読書集会の開催、図書標語コンクールの実施、図書館通信(生徒向け・教職員向け)の発行など、学校全体を巻き込んだ活動にも引き続き力を入れている。今後の課題は、学校図書館と教科とがいがい連携を進め、図書館を利用した授業が全教科にわたって実践されていくかということである。そのための体制作りを推進していきたい。	A	・実行してははたかどうか。 ・学校図書館の保護者や地域への利用も検討してみようか。 ・ふるさとの「ひと・こと・もの」を活用した学習に積極的に取り組んでいると感じる。	各教科が授業実践の中に図書館をどう位置づけていけるかということが課題である。図書館を学習・情報センターとして位置づけ、日々の授業の中で、図書館を有効に活用していくためにも、教職員全体の課題として研修等を進めていきたい。
			地域のために何が出来るかを考え、勤労を通して、社会に奉仕し貢献するということを自覚し、充実した生き方を追求しようとする資質や態度を育てる。	1年:地域を知り、地域に学び、そこで生きる自分を見つめ、生きていくことを考える。 2年:地域を通して、地域に働く人々の姿を通して、進路選択についての考えを深める。 3年:地域や社会に目を向け、地域での活動を通して、社会の中でよりよく生きていくための考えを深め、進路実現につなげていく。	総合的な学習の時間や各教科等とも連携しながら計画を立て、ふるさとへの理解や思いを深めることのできる取り組みを行う。	昨年度作成した青陵中校区のふるさと学習年間計画をもとに、全校での波子海岸清掃、1年生の「ふるさと江津を知ろう」の学習、2年生の「ソーセージ手作り体験」3年生の「職場体験」など各学年とも地域の人材・施設・環境を活かし、自己とふるさとのつながりについての理解を深め、ふるさとの一員として何が出来るか、将来どうすべきかなど、深く考えることができた。			各学年、各教科、全校行事等でお互いを高め合う集団づくりの場面を設定し、人との関わりや自分の役割を果たしつつ他と協力して物事に取り組む力をはくくむ学習を推進することができた。特に学校行事や全校集会では生徒の成長する場面を見ることができたが、日常生活においてその力が発揮できていないのが見られるので、これからも取り組んでいく必要がある。	各学年、各教科、全校行事等でお互いを高め合う集団づくりの場面を設定し、人との関わりや自分の役割を果たしつつ他と協力して物事に取り組む力をはくくむ学習を推進することができた。特に学校行事や全校集会では生徒の成長する場面を見ることができたが、日常生活においてその力が発揮できていないのが見られるので、これからも取り組んでいく必要がある。	B	
～夢を育む学校創り～ 「人間尊重の精神のもと、自ら学び、心遣いのできたまじ生きる実践力のある生徒を育成する」	一人一人の心に寄り添い、ニーズにあった教育の推進	○目標や意欲を持ち、主体的に学んでいこうとする生徒	共感的理解に基づく教育相談活動の充実をめざす。	自己肯定感を高めるような教育相談活動を展開する。SCの効果的な活用を図る。	教育相談を計画的に実施する。必要に応じてケース会議を開催し、支援体制を整える。	必要に応じてケース会議ができる環境が整ってきた。保護者やSC・関係機関との連携や特別支援CNの介人も行い、個に応じた指導を心がけている。教育相談に関する教職員のスキルアップの場を設定していきたい。	A	A	ケース会議のメンバーをCNを中心にその都度調整し、個に応じた指導を展開するよう工夫する。集団に入りにくい生徒にはその課題を明確化し、インクルーシブ教育の構築を目指す。外部からの講師や通級指導教員や特別支援教育CN等を講師にした、校内研修を積極的に実施する。			
			自分の大切さとともに他の人の大切さも認めようとする意欲や態度を育てる。	人権に関する知的理解と人権感覚の両面から、平素の生徒の生活に密着した指導を工夫する。	認め合い、励まし合って生活する集団づくりを工夫する。人権集会で平素の生徒の考えや思いが発表できるような取り組みを行う。	生徒会総務と福祉委員会の連携でことばをテーマにした人権集会を実施できた。各学年とも道徳、人権集会で人権問題を意識させて講演を全校で聞いたので、人権感覚を高めることができた。生徒たちも、自分の内にある人権感覚を触発され、気持ちに正直な感想を書いていた。人権・同和教育の日常化および「基礎に据える」ことをめざすとともに、学期に1回は、人権に焦点を当てた取り組みを積み上げ、来年度も、授業・集会・講演会と関連させた「人権集会」を取り組みたい。	B		生徒の人権感覚が高まるような年間計画を工夫していく。普段の学校生活や授業を等して、生徒の人権意識を高めていくことができるようにする。			
			特別支援教育の校内体制を整備し、個の特性に応じた支援を充実させる。	特別支援教育支援員を効果的に活用する。	特別支援教育支援員を効果的に活用する。	事前に関係職員間で打ち合わせをし、役割分担をする。	支援員との連携を密に行い、支援員同士での連携にも助けられ、個別のニーズが明確になっている生徒には支援をすることができた。		支援員との連携を密に行い、支援員同士での連携にも助けられ、個別のニーズが明確になっている生徒には支援をすることができた。	A	・先生と生徒の関係が良好で信頼関係が構築されているように感じる。 ・教職員一人一人のスキルアップとマネジメント力向上の取り組みを期待する。	個別の支援計画(長期・短期)を確実に作成し、各学年部・各教科担当との支援の在り方を年度当初より共通理解し、学期ごとの評価を個々の支援に反映させていける方法を考える。
			教職員の特別支援教育への理解を深め、支援力の向上を図る。	教職員の特別支援教育への理解を深め、支援力の向上を図る。	校内研修会を実施するとともに、校外での研修会で得た情報を職員に提供する。	校内研修会を夏休期中に実施することができ大変良かった。個々のケース・ニーズにおいては学年ごとに協力して取り組む体制ができつつある。今後は校外研修で得た情報を教職員で提供する場を確実に設ける必要を感じる。	校内研修会を夏休期中に実施することができ大変良かった。個々のケース・ニーズにおいては学年ごとに協力して取り組む体制ができつつある。今後は校外研修で得た情報を教職員で提供する場を確実に設ける必要を感じる。		B	年間1回は特別支援教育に関する研修を引き続き行って。外部研修での内容は、短時間で職員朝礼で紹介し回覧での周知はかる。特に重要な件については職員会で短時間での研修を行い共通理解を図る。		
○明るく快活で、素直な心を持ち、ふるまいや行動がさわやかな生徒	学ぶことと働くことを関係づけた進路指導の推進	○広く社会から学び、自らの進路を切り拓いていこうとする生徒	進路指導の体制を整え、職場体験、進路相談等の取り組みを充実させる。	キャリア教育の視点を踏まえ、中学校三年間の系統的な進路指導計画を立てて実施する。	各学年における調査活動や体験学習の計画的・適切な実施を推進する。	各学年の計画に基づき、生徒の実態や希望により、地域の事業所の協力や福祉・ボランティア団体との適切な連携が図られ、計画的に実施された。	A	A	キャリア教育の視点に基づいて、系統的な進路指導をねらいを含めて今後検討していく。地域の事業所や福祉・ボランティア団体に協力が得られるように、適切な連携を進める。			
			主体的に進路選択する能力・態度を育成するとともに、今と将来をつなげる学習指導を展開する。	キャリア教育の視点を活かした教育活動を展開し、全校体制で取り組む方向性を明確にし、実践する。	総合的な学習の時間の中心テーマをキャリア教育にして、生徒が自分の生き方を具体的に・実際のものとして考えられるよう活動を計画・実施していく。	総合的な学習の時間の中心テーマをキャリア教育にするとともに、各教科・領域でコミュニケーション能力の向上をめざし、具体的な取り組みがなされた。全校体制でのキャリア教育を推進することができた。	総合的な学習の時間の中心テーマをキャリア教育にするとともに、各教科・領域でコミュニケーション能力の向上をめざし、具体的な取り組みがなされた。全校体制でのキャリア教育を推進することができた。		A	・来年度から変更になる高校の入試システムの生徒・保護者への情報提供を望む。	各学年の総合的な学習の時間の成果を検証し、主体的に進路選択できるような学習プログラム・年間計画等を検討する。キャリア教育をさらに推進していくための計画の工夫改善を行う。来年度から公立高等学校の入試システムが変更になることから、第1学年から生徒・保護者へのより一層きめ細やかな情報提供をしていく	
○互いに認め合い、支え合い、高め合う生徒	生徒の自立を促す指導の充実	○互いに認め合い、支え合い、高め合う生徒	教職員の共通理解と協力体制の充実を図り、社会規範を遵守し、防犯に努めようとする態度を育成する。	あいさつ・服装・清掃・持ち物管理などの基礎的な生活習慣の定着を継続的に進めていく。  交通安全や防犯の意識を高め、自分の身を守るための知識や意識の向上を図る。	あいさつや服装の指導、体育館ロッカーの使用に関する指導を通して日常の指導を続ける。  登下校の指導やタスキ着用指導、自転車指導を行い、防犯や交通事故防止に努める。	学校生活は概ね落ち着いた。挨拶や服装などの基本的な生活習慣が定着している生徒が多い。しかし、特定の生徒の服装の乱れは拍車がかかっている。また、登校時間の遅い生徒や自転車の乗り方、集団生活のマナーなどに欠けている生徒も固定してきた。そうした生徒への継続した指導の必要性を感じる。	B	B	引き続き、登下校時の街頭指導や全校集会、朝礼などで継続的に指導を続けていくとともに、生徒会活動やPTA活動との連携を強化し、あいさつや服装、時間に対する意識、交通安全意識などの向上を図る。			
			全教育活動を通して、生徒一人一人の道徳性を高める。	お互いの考えを尊重し、伝え合い、人間としての生き方について、共に考え合う場を意図的に設定する。	コミュニケーション活動を取り入れた授業づくりを進める。	授業の中で、コミュニケーション活動の場面を設定することは、意図的に行われていた。それが適切であったかどうかお互いの授業を見る機会があると良かった。人権集会の前に、人権・同和教育部から提案された資料・授業展開を参考に、各学年部で話し合いを持ち合わせることができた。学期に一度は共通の資料を用いたの研究授業や研究協議を持つことが望ましいが、なかなかできなかったのが反省点である。	授業の中で、コミュニケーション活動の場面を設定することは、意図的に行われていた。それが適切であったかどうかお互いの授業を見る機会があると良かった。人権集会の前に、人権・同和教育部から提案された資料・授業展開を参考に、各学年部で話し合いを持ち合わせることができた。学期に一度は共通の資料を用いたの研究授業や研究協議を持つことが望ましいが、なかなかできなかったのが反省点である。		B	研究部や人権・同和教育部と相談しながら、学期に一度は道徳の研究授業を行うことをめざす。道徳の時間の教科化に向けて、年間計画や教材・資料等の見直しを行う。		
			互いに支え合い、高め合う集団づくりを行う。	1年:集団の中で自己の役割を自覚し、責任を持って取り組もうとする態度を育てる。生徒相互の人間関係を深め、互いを思いやり、協力して活動する態度を育てる。 2年:よりよい人間関係を確立し、互いに支え合って向上しようとする態度を育てる。集団生活の意義を理解し自主的・主体的に行動する態度を育てる。 3年:充実した学校生活を過ごすと共に、よきリーダーとして行動できる力を育てる。	教職員間で十分な共通理解を図り、組織的な指導を行う。活動の狙いや意義について理解させ、その達成に向けた主体的な活動を促す。  活動後に個人・集団に対する評価の場面を設け、活動の成果や課題を明らかにする。教職員の自己評価で肯定的評価が75%以上。	教職員の自己評価では、「学校では、学校行事において、そのわらいや意識を踏まえ、計画的・組織的に指導がなされている。」「生徒指導の方針や重点について理解し、他の職員等と協力して指導を行った。」の項目の肯定的評価が100%であった。また、「学級活動の計画的な指導に努め、指導の工夫改善を行った。」「学校では、学校行事における成果を生徒に意識させるとともに、それを学級・学年経営に生かすよう、工夫がなされている。」「学級や学年では進路相談・進路に関する学級活動等が計画的に行われ、生徒の進路に対する意欲や意識の高揚を図った。」「学級や学年では、自分を大切にすることを育て、互いに支え合い、高め合う学年・学級づくりの実践に努めた」といった項目も肯定的評価が9割を越えた。 1年部は各担任の個性を発揮するとともに、学年で統一すべき点は周知徹底し、協働して組織的な指導が行えた。 2年部は生徒と教員の信頼関係の構築に努め期待以上の成果を取めた。 3年部は生徒との信頼関係をもとに、進路指導・キャリア教育を中心に語え、粘り強い生徒指導、学習指導を継続的に行った。	教職員の自己評価では、「学校では、学校行事において、そのわらいや意識を踏まえ、計画的・組織的に指導がなされている。」「生徒指導の方針や重点について理解し、他の職員等と協力して指導を行った。」の項目の肯定的評価が100%であった。また、「学級活動の計画的な指導に努め、指導の工夫改善を行った。」「学校では、学校行事における成果を生徒に意識させるとともに、それを学級・学年経営に生かすよう、工夫がなされている。」「学級や学年では進路相談・進路に関する学級活動等が計画的に行われ、生徒の進路に対する意欲や意識の高揚を図った。」「学級や学年では、自分を大切にすることを育て、互いに支え合い、高め合う学年・学級づくりの実践に努めた」といった項目も肯定的評価が9割を越えた。 1年部は各担任の個性を発揮するとともに、学年で統一すべき点は周知徹底し、協働して組織的な指導が行えた。 2年部は生徒と教員の信頼関係の構築に努め期待以上の成果を取めた。 3年部は生徒との信頼関係をもとに、進路指導・キャリア教育を中心に語え、粘り強い生徒指導、学習指導を継続的に行った。		A	生徒が学校生活の中で、基本的な生活習慣を身につけ、互いに大切で支え合える集団として育っていくためにも、教職員が一人一人の生徒の姿にしっかりと目を向け、同じ歩調で声かけ指導をし、しっかりと関わっていく姿勢を持つ必要がある。また、教職員は、学校・地域・保護者との連携について本校の特質を考えながら、できることを積極的に進めていくよう心がけていく。		
保護者・地域との双方の連携を強化し、学校運営に対する参画や協力を得る。	保護者・地域の声を学校経営に活かす。 PTA活動や学校支援対策事業を有効に活用し、保護者・地域と連携した学校運営を展開していくとともに、職員の負担軽減を図る。	保護者アンケートや感想用紙・学年懇談会・学期末懇談会等を計画的に実施し、そこで出た意見を学校運営に活かしていく。学校支援対策事業(学校コーディネーター)を有効に活用していく。	ふるさと学習や進路学習、炊き出し体験活動、家庭科での実習等で、地域のひと・もの・ことを活用し、大いなる教育効果があった。しかし、事前の打ち合わせや日程調整等が不十分で迷惑をかけたこともあり、反省点であった。学校コーディネーター等の協力により、新たな取り組み(修学旅行での企業訪問、教職員研修での地元企業見学等)を行うことができた。保護者からの相談や要望を、必要に応じて、学年部、管理職、全職員と迅速に報告し、周知徹底を図るとともに、必要な意見を学校運営に活かしていった。	ふるさと学習や進路学習、炊き出し体験活動、家庭科での実習等で、地域のひと・もの・ことを活用し、大いなる教育効果があった。しかし、事前の打ち合わせや日程調整等が不十分で迷惑をかけたこともあり、反省点であった。学校コーディネーター等の協力により、新たな取り組み(修学旅行での企業訪問、教職員研修での地元企業見学等)を行うことができた。保護者からの相談や要望を、必要に応じて、学年部、管理職、全職員と迅速に報告し、周知徹底を図るとともに、必要な意見を学校運営に活かしていった。	B	・地域を巻き込んで積極的な学校経営を推進していくという熱意を感じる。しかし、先生ごとの考えと行動にばらつきがあり、継続していくための課題だと感じる。学校としての地域連携のマニュアルを作成し、ノウハウを構築していけるようにしていくことが重要である。 ・保護者のPTA活動への参画意識が薄く、課題であるように感じる。次年度、何かの立案を考えていく必要性を感じる。 ・学校HPや学年・学級だよりによる積極的な情報提供をお願いしたい。	職員が地域との共同意識を高め、来年度も地域のひと・もの・ことを有効に活用していきたい。そのために、より地域と職員・学校とのつながりを密にするよう諸々の機会を利用し、取り組んでいく。学校支援対策事業等のより有効な活用方法や内容の充実を、今後も有効な活用を検討する。学校公開日や学年懇談会への参加者が増えていくよう、1学期のPTA総会だけでなく、学校のいろいろな体験活動や啓発活動の際に、保護者や地域に参加を呼びかけを図っていく。					
学校教育の内容や計画を広く情報発信する。	各種たより、学校HP、メール配信により情報提供を行う。	保護者アンケートで80%以上の肯定的評価をめざす。	学校HPについては、昨年度ほど更新できず、今後の運用方法を検討していく必要がある。保護者に学校連絡メールの加入を呼びかけ、加入率は90%を越え、学校連絡メールを有効に活用することができた。各種たよりの発行は、学年や学級で積極的に発行できたが、保護者アンケートでは、63%の肯定的評価、21%の否定的評価で、昨年度より低い評価となった。	学校HPについては、昨年度ほど更新できず、今後の運用方法を検討していく必要がある。保護者に学校連絡メールの加入を呼びかけ、加入率は90%を越え、学校連絡メールを有効に活用することができた。各種たよりの発行は、学年や学級で積極的に発行できたが、保護者アンケートでは、63%の肯定的評価、21%の否定的評価で、昨年度より低い評価となった。	B		今後は学校HPの更新と、たより等による情報提供の機会の増加、内容の充実を図る。学校連絡メールの有効活用を図っていく。より保護者との連携を密に図り、共同歩調で生徒の育成にあたるよう努めていきたい。					
学校種間の緊密な連携を通して、学校運営の改善を図る。	各教科、分掌等による学校間の情報連携の精度を高める。	情報連携の進め方について、より有効な方法を模索し、適切に実践していく。	小中連携推進委員会を開催し、小中の連携について計画的に取り組んだ。小中合同の職員ふるさと研修会や情報交換、出前授業や授業参観、部活動体験等、成果があった。中学校の定期テスト期間にあわせて、校区内で学習ウィークを設定し、効果があった。夏休み計画した中学生による小学生への学習サポートも定着化しつつある。	小中連携推進委員会を開催し、小中の連携について計画的に取り組んだ。小中合同の職員ふるさと研修会や情報交換、出前授業や授業参観、部活動体験等、成果があった。中学校の定期テスト期間にあわせて、校区内で学習ウィークを設定し、効果があった。夏休み計画した中学生による小学生への学習サポートも定着化しつつある。	A		今後も小中連携推進委員会を校と連携を進めていきたい。来年度は校区内の小学校職員との交流をより強化したい。校区の学習ウィークの設定は、学力量の面から、効果的で来年度も、継続して実施すると良い。夏休みの学習サポートは、さらに有意義な活動となるよう時期や内容を精査していきたい。					

評価 A:達成できた B:おおむね達成できた C:あまり達成できていない D:達成できていない